

増上寺の御詠歌

♩ = 50ぐらい

松 濤 基 作曲

mf *f*

○ × ○ × ○ × ○ × × ○ ×
 (詠頭) ご オ ー く ー ウ ー ら (斉唱) ア く は はア ー る ー

mf *p* *mf*

• × ○ × ○ ⊗ × × × × × ×
 け エ ー き く ウ ウ ー に ー と オ ー お ー も ー い し ー

f (V)

○ × × ⊗ ⊗ ⊗ × ○ × • ×
 に な ー む ー あ ー み だ ア ぶ つ ウ ー に

mf *rit.* *p*

○ × ○ × ○ × ○ ×
 か ー ー よ う ー オ ー あ し も と

武蔵の国 大本山増上寺

極楽は 遙けきくにと おもひしに なむあみだぶつに かよふあしもと

(大本山増上寺八十二世性誉上人椎尾辨匡大僧正御作)

◇性誉上人（85歳）講話『中陰なき浄土教』より

「法然上人の御開きになったお念仏は、一声の南無阿弥陀仏の中にも、一切の仏の功德が納まっています。念仏者の喜びは、いつも阿弥陀仏のお徳をこうむり、信仰の喜びと明るさに目覚め、命終に迷わず、すぐに往生させていただけることです。また、往生人は往きっぱなしでなく、阿弥陀仏のみ元で威神力を向上して、明るい喜びを増し、残れる人の力となって働いて下さいます。これは極楽からの廻向で、還相廻向げんそうえこうといひます。往生を願う往相おうそうの念仏者は阿弥陀仏始め観音勢至や先立ちし人の還相に出会い、そのお育てをこうむります。私は、年毎に還相の養いを受けていることの実感を、はっきり力強くいただけるようになってきました」と、大僧正はお導きくださいました。

大意 極楽は遠い遠い存在と思っていました。しかし、今は南無阿弥陀仏の一念一念に、身は現にここに居ながら、身近に親しく極楽の聖衆と通いあう尊いご縁をいただいています。

ポイント注意

- 「くゥにとォ」の「と」の強声をうけて「ォー」と小さく。
息つぎして「おもいし」と続きます。